

あなたとともに 25年

釧路芸術館 珠玉のコレクション

2023.12.9 | 土 | ~ 2024.4.7 | 日 |

主催 | 北海道立釧路芸術館、釧路新聞社 後援 | 釧路市、釧路市教育委員会、NHK釧路放送局、FMくしろ 協賛 | 釧路芸術館ボランティアの会SOA

出品リスト

I 〈自然と芸術〉

〈自然と芸術〉は、年間を通して寒冷な気候を示し、釧路湿原やトドワラ、知床といった豊かな自然に恵まれた北海道の東部に位置する、釧路芸術館ならではのコレクション。自然は私たち人間と深く関わるテーマであり、長い美術の歴史においても創作の源泉や題材になることはもとより、素材としても利用されてきました。

西洋ではかつて、自然は調和のとれた理想的な姿であらわされました。しかし近代以降、自然をありのまま描いたものや、抽象化してとらえたもの、作者の心情に重ね合わせて表現したものなど、さまざまな作品が生まれています。一方、東洋でも理想の景観を描いた山水画のほか、美しい動植物やそこに寓意を込めてあらわした花鳥画などがあるように、自然は関心の対象となってきたといえるでしょう。

当館がこの25年間に収集してきた〈自然と芸術〉をテーマとするコレクションには、身近な自然にまなざしを向けたものをはじめ、神秘性をとらえたもの、象徴的に描いたものなど、作家たちが自身の目や心で自然を受け止め表現した作品が多数含まれています。本章ではこうした中から、自然を構成する要素である天、地、水といったモチーフに目を向けご紹介します。

作家名	作品名	制作年	寸法 (cm)	技法、材質
千住 博	ウォーターフォール	1997(平成9)	162.0×454.0	岩絵具、雲肌麻紙
間島 秀徳	UNTITLED No.1 (NI)	1997(平成9)	250.0×105.0	水墨、アクリル絵具、岩胡粉、雲肌麻紙
上田 薫	流れ S	1997(平成9)	162.0×215.0	油彩、キャンバス
岡沼 淳一	溯行	1986(昭和61)	150.0×135.0×300.0	埋もれ木 (ニレ)
田中 みぎわ	天国の門	2001(平成13)	148.0×413.0	墨、雲肌麻紙
岩橋 英遠	彩雲	1979(昭和54)	149.8×210.5	岩絵具、紙
日高 理恵子	落葉松	1987(昭和62)	182.0×324.0	岩絵具、麻紙
小林 孝亘	Tree	2002-03(平成14-15)	410.0×300.0	油彩、キャンバス
高坂 和子	林の光景	1991(平成3)	162.1×130.7	油彩、キャンバス
丸山 直文	Color Shadows	2003-04(平成15-16)	181.8×227.3	アクリル絵具、綿布
今泉 心	Hole	2003(平成15)	130.3×162.1	油彩、キャンバス
徳丸 滋	枯むぐら	1988(昭和63)	162.1×162.1	油彩、キャンバス
花田 和治	SKI II	1989(平成元)	107.0×270.0	油彩、キャンバス

II 〈映像芸術〉

ここにち、写真や映像は日常的なメディアです。1998年のオープン当時、写真や映像を芸術作品として収集する日本の美術館は、まだあまり多くありませんでした。しかし、そうした中で当館は映像の将来性を見据えいち早く注目。〈映像芸術〉をコレクションの柱の一つとして、主に写真を収集してきました。

19世紀にフランスで発明された写真は、情報を正確に記録し伝達する点で驚きをもって人々に受け入れられました。その特性を生かし、肖像写真や、報道写真、動植物をとらえた自然写真などが誕生し、現在まで様々な分野で活用されています。やがて20世紀半ばになると、旧来の報道写真への反発や表現の可能性の追究から、被写体に撮影者の感情を重ねた写真が登場しました。記録と伝達を目的とはせず、撮影者が主観的に被写体を選び表現しようとする意識が生まれます。表現のために、大胆な撮影アングルやクロースアップ、手ぶれやピントのボケなどのほか、プリント時の焼き込みを効果的に用いた作品もあらわれました。

また、現在ではかつて美術とは別のジャンルとみなされた写真を、表現手段のひとつとして取り入れた現代美術作品も登場しています。

当館のコレクションは、記録性を重視するものから、現代美術に取り入れられたものまで、60年代から2000年代にかけての日本の写真を中心としています。写真の動向は技術や社会の変化とともに移り変わってきましたが、このコーナーではそれぞれの時代や表現をよく示す作品をとおして、表現の多彩さや魅力をご覧くださいます。

作家名	作品名	制作年	寸法（cm）	技法、材質
アンセル・アダムス	ポートフォリオⅦ： ハーフドーム 舞い散る雪	1955頃	39.6×49.5	ゼラチン・シルバー・プリント
マイケル・ケンナ	Kussharo Lake Tree, Study 9, Kotan, Hokkaido, Japan. 2009 屈斜路湖	2009	19.5×20.3	ゼラチン・シルバー・プリント
岩合 徳光	日本の野生・北海道：エゾフクロウ	1970(昭和45)頃	49.8×33.2	カラーダイレクトプリント
岩合 徳光	野生の鼓動：インドトラ	1971-90(昭和46-平成2)	36.1×49.8	カラーダイレクトプリント
綿引 幸造	朝霧の釧路湿原	1982(昭和57)	35.7×52.5	カラープリント（クリスタルプリント）
水越 武	奇跡の惑星・地球 エンゼルの滝、ギアナ高地、ベネズエラ	1996(平成8)	80.0×120.0	タイプCプリント（カラープリント）
水越 武	水の回廊・日本列島 オオワシ、知床	2003(平成15)	65.0×100.0	タイプCプリント（カラープリント）
長倉 洋海	戦場から人間へー長倉洋海18年の軌跡 コーヒーを飲む老農夫 [内戦に生きるーエル・サルバドル]	1984(昭和59)	57.7×38.6	ゼラチン・シルバー・プリント
長倉 洋海	戦場から人間へー長倉洋海18年の軌跡 山の上で、ひとり本を読むマスード [マスードの戦いーアフガニスタン]	1983(昭和58)	39.6×58.8	カラープリント
奈良原 一高	人間の土地 緑なき島 HL-40	1954-57(昭和29-32)	32.9×21.8	ゼラチン・シルバー・プリント
奈良原 一高	人間の土地 火の山の麓 HL-99	1954-57(昭和29-32)	32.7×21.7	ゼラチン・シルバー・プリント
川田 喜久治	ラスト・コスモロジー 昭和最後の太陽3ー 東京	1989(昭和64)	51.3×34.4	ゼラチン・シルバー・プリント
深瀬 昌久	鴉	1977(昭和52)	96.5×141.8	ゼラチン・シルバー・プリント
田原 桂一	窓	1974-81(昭和49-56)	50.0×70.0	ゼラチン・シルバー・プリント
白岡 順	[Jun SHIRAOKA Photographs 1970－1998]米国、ニューヨーク市（マディソン街 67丁目）、1978年9月20日	1978(昭和53)	37.2×55.2	ゼラチン・シルバー・プリント
森永 純	河一累影	1960(昭和35)	30.6×44.5	ゼラチン・シルバー・プリント
普後 均	FLYING FRYING PAN	1980(昭和55)	36.4×54.2	ゼラチン・シルバー・プリント
森山 大道	『光と影』より：椅子	1981(昭和56)	44.7×54.8	ゼラチン・シルバー・プリント
森山 大道	『光と影』より：靴	1981(昭和56)	44.7×54.8	ゼラチン・シルバー・プリント
猪瀬 光	INOSE Kou 1982-2000	1983(昭和58)	21.0×31.5	ゼラチン・シルバー・プリント
松江 泰治	SOUTH AFRICA 1995	1995(平成7)	44.7×55.8	ゼラチン・シルバー・プリント
松江 泰治	NEW ZEALAND 1996	1996(平成8)	44.7×55.8	ゼラチン・シルバー・プリント

作家名	作品名	制作年	寸法（cm）	技法、材質
伊奈 英次	WASTE：ドラム缶に詰められた合成繊維、 長野県中野市	1996(平成8)	100.0×125.0	タイプCプリント（カラープリント）
伊奈 英次	WASTE：混ぜ合わされたインク、 福島県いわき市	1996(平成8)	100.0×125.0	タイプCプリント（カラープリント）
畠山 直哉	Slow Glass: #065	2001(平成13)	90.0×120.0	タイプCプリント、ラミネート加工、 アルポリック板貼付
秋岡 美帆	ゆれるかげ	1993(平成5)	220.0×275.0	スキャナグラフ（NECOプリント）、 雲肌麻紙
杉本 博司	SEASCAPES: Sea of Japan, Hokkaido 1.	1986(昭和61)	41.5×54.3	ゼラチン・シルバー・プリント
杉本 博司	SEASCAPES: North Pacific Ocean, Mt.Tamalpais	1994(平成6)	41.5×54.3	ゼラチン・シルバー・プリント

■ 美術館のコレクションNo.1

● 一番古い作品

アンセル・アダムス	ポートフォリオⅦ：板とアザミ	1932頃	39.6×49.5	ゼラチン・シルバー・プリント
-----------	----------------	-------	-----------	----------------

● 一番新しい作品

木島誠悟	絵本『キリンのあかちゃんがうまれた日』原画	2019(令和元)	25.0×42.0	オフセット印刷、紙
木島誠悟	絵本『キリンのあかちゃんがうまれた日』原画	2019(令和元)	25.0×42.0	オフセット印刷、紙

● 一番小さい作品

アンセル・アダムス	ポートフォリオⅦ：納屋	1976頃	10.2×12.7	ポラロイド・プリント
-----------	-------------	-------	-----------	------------

Ⅲ 〈地域と芸術〉

釧路・根室地域の美術館として設立された当館は、地域に関係する作品やゆかりの作家の作品をコレクションの柱のひとつとしてきました。年間を通じ冷涼かつ湿潤で、やわらかな陽射しが降り注ぐこの地域は、北海道内でも特徴的な気候を示しています。こうした環境が個性豊かな作家をはぐくみ、多様な作品を生み出してきました。

道東の独特な気候風土は、地域を制作活動の拠点とする作家たちにより格好の題材とされてきました。霧に包まれる町並みや鮮やかな夕日、人々の暮らしなどを描いた風景画からは、地元の身近な光景への作者の愛着が感じられます。また、この地域の風景を外から見つめる作家たちにとって、広大な原野や冬の厳しい寒さ、抒情的な港町の雰囲気などは新鮮なものとしてあらわされました。

地域の歴史をとらえた作家もいます。例えば、根室市には、明治から昭和まで通信拠点として機能した無線送信所跡が遺されています。日本の近代化や戦争とともに歩んできたこの建物から、地域の歴史を読み取ろうとする作品も制作されました。その内部を撮影したり、床に刻まれた傷や凹凸を写し取ることによって、人の営みや記憶、時間の経過を目に見えるかたちでよみがえらせようとしたのです。

また、ここから活躍の場を全国に求めた作家もいます。彼らはそれぞれ、自身が肌で感じてきた地元の気候風土を創作の源に、風景画や抽象絵画、建築などさまざまな表現を展開してきました。このコーナーでは、釧路・根室地域ならではの多彩な作品をご紹介します。

作家名	作品名	制作年	寸法（cm）	技法、材質
東理 次良	無 No.5	1961(昭和36)	106.3×121.3	油彩、キャンバス
中江 紀洋	けもの道への扉	2012(平成24)	35.0×200.0×300.0	木（ニレ）、アクリル絵具
扇谷 章二	卓上のある静物	1976(昭和51)	130.3×162.1	油彩、キャンバス

作家名	作品名	制作年	寸法（cm）	技法、材質
伊藤 正	厚岸の浜	1969(昭和44)	112.0×145.1	油彩、キャンバス
望月 正男	落日	1975(昭和50)	197.0×160.0	油彩、キャンバス
田中 良	オホーツク	1989(平成元)	181.8×227.3	油彩、キャンバス
羽山 雅愉	黄昏・釧路(00-3)	2000(平成12)	130.3×194.0	油彩、アクリル絵具、キャンバス
池田 良二	An inside frontier（内在する辺境）	1990(平成2)	114.0×180.0	フォトエッチング、エッチング、アクアチント、ドライポイント、メゾチント、手漉き雁皮
岡部 昌生	根室落石岬・旧落石無線局床	1990(平成2)	150.0×285.0	フロッターージュ、鉛筆、ハトメ、紙（厚手シート圧着）
池田 緑	Silent Breath サホ口の2ヶ月	2009(平成21)	66.5×66.7	インクジェットプリント、紙
池田 緑	Silent Breath サホ口の3ヶ月	2009(平成21)	66.5×66.7	インクジェットプリント、紙
池田 緑	Silent Breath サホ口の12ヶ月	2009(平成21)	66.5×66.7	インクジェットプリント、紙
池田 緑	Silent Breath サホ口の33ヶ月	2009(平成21)	66.5×66.7	インクジェットプリント、紙
米坂 ヒデノリ	漂泊	1973(昭和48)	38.0×46.2×155.3	木（カツラ、マツ）
赤穴 宏	黎	1961(昭和36)	182.0×227.6	油彩、キャンバス
羽生 輝	海霧（07. オダイト）	2007(平成19)	181.8×227.5	岩絵具、合板
毛綱 毅曠	建築古事記一曼陀羅2（火）	1991(平成3)	180.0×180.0	シルクスクリーン、紙
毛綱 毅曠	建築古事記一曼陀羅4（風）	1991(平成3)	180.0×180.0	シルクスクリーン、紙

※寸法は 縦×横、高さ×幅×奥行、または径×高さ



北海道立釧路芸術館